

令和3年度

学校自己評価報告書

令和4年 3月31日

学校法人 東洋学園

専門学校 東洋公衆衛生学院

自己点検評価委員会

学校自己点検・評価とは、学校が学校運営状況について自ら評価し、その結果に基づき改善することである。本校では、学則第4条及び自己点検・評価規程により実施し、学校及び学科の方針、運営計画にもとづいた教育活動や学校運営に対し、総合的に評価した。

根拠として、授業評価資料、会議の議事録、日報、学生指導の報告書、復命書等がある。評価項目を自己点検・評価規程第2条の10項目とし、また、評価段階を4段階

(4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない)とした。

コロナ禍が続くなか、学校行事や教育活動、社会貢献や卒業生支援等の評価項目の一部において、自粛や中止、変更等の影響があったが、感染予防に十分配慮し、学生の不利益にならないよう、また、業務の遂行に支障がないよう努めてきた。評価活動についても、実施要項に拠り取り組んでいる。

I 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・教育目標、育成人材像が設定されている	4
2	教育理念・教育目標、育成人材像は明文化している	4
3	職業教育の特色を持っている	4
4	教育理念・教育目標が周知徹底されている	4

【状況・課題】

- ・「医の倫理をわきまえ、医療人としての学術を基本に、情操豊かな人間性を培う」という教育理念、(1)自己の成長のために学習を継続するとともに、職業人としての問題の追及と解決に当たる態度を身につける。(2)責任感と実務能力を備え、社会の信頼に十分にこたえられる知識と技能・態度を身につける。(3)人とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につける。という教育目標を設定し、学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板で周知している。
- ・4月の新入生ガイダンスで、教育理念・教育目標について説明している。

【改善策】

- ・日頃から学生に対して建学の精神、教育理念や教育目標に基づいて指導を行う上で、教職員自ら実践することを心がけ、改善に努めていく。
- ・保護者に対しては、今後Webサイトで周知することを検討していく。
- ・体験入学や学校説明会等のイベントの参加者に教職員から説明する。
- ・学生指導のあり方を中心に検討し、学校全体の取組として充実させていく。

II 学校運営

	評価項目	評価
5	目的に沿った運営方針が策定されている	3
6	運営方針に沿った事業計画が策定されている	4
7	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能している	4
8	人事や給与に関する規程等は整備されている	4
9	情報のシステム化による業務の効率化が図られている	4

【状況・課題】

- ・学則に定めた目的を達成するよう学校運営にあたっているが、具体的に学校および学科運営方針の策定を要する。
- ・コロナ禍の影響により、一部事業計画の見直し・変更等があったが、おおむね順調に、年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。
- ・法人の意思決定事項は寄附行為で定めており、主要な項目は理事会・評議員会で決定している。通常の業務運営については理事長・学院長の下、各部署の役職者にて、意思決定と組織運営を行っている。
- ・就業規則、給与等の諸規程については整備され、状況に応じ改正している。
- ・LAN サーバーを導入し、教職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っている。

【改善策】

- ・教職員会議などで学校運営方針の意識付けを積極的に行う。
- ・LAN サーバー内の共有フォルダ、ファイルを定期的に整理し、事務効率を上げる。
- ・Web サイトによる情報公開を積極的に行う。
- ・学校運営について、安定的な定員確保と学生指導と施設面の整備について今後も継続して検討する。
- ・GoogleWorkspace for Education（以下 Google Workspace と略す）により、オンライン授業などで、教職員と学生及び教職員間の情報共有がスムーズに行われたが、引き続き、各教職員のスキル向上に努めていく。また、学生に対しても Google Workspace の各ツールを積極的に利用するよう指導をしていく。

Ⅲ 教育活動

	評価項目	評価
10	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
11	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	4
12	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
13	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
14	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
15	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	4
16	資格取得の指導体制はある	4

【状況・課題】

- ・カリキュラム編成については、指定規則に則り教育内容の充実に努めており、講義、学内実習、並びに臨地・臨床実習を重視している。
- ・学科長を中心とした各学科の担当で構成された会議にて、養成所指定規則、養成所ガイドライン及び養成所指導要領の改正に伴い、令和4年度入学者のカリキュラムの見直しを行っている。
- ・学則、履修方法及び進級・卒業認定細則により成績評価・単位認定の基準を明確にしており、進級及び卒業認定は学院長、学科長で構成された進級査定委員会、卒業認定委員会で決定している。
- ・シラバスを全面的に改訂し、内容の整備を行った。また、Webサイトでもデジタルブック化して公開している。
- ・授業計画は明文化されており、1年次では基礎学力の習得と医療人としての人格形成を行い、2年次では専門科目の習得と学内実習・臨床実習Ⅰ（診療放射線技術学科）では、医療人としての使命感を高め、3年次の臨地実習（臨床検査技術学科）・臨床実習Ⅱ（診療放射線技術学科）では、これまで学んだことの実践を行い、職業意識の向上につなげる教育を実施している。
- ・GPA制度を導入して学修成果の指標として役立たせている。
- ・学生による授業評価を実施しており、授業内容の改善に努めている。また、授業評価の実施方法については、Formsによる配信型の授業評価アンケートを行い、積極的に回答ができるような体制をとっている。
- ・Formsで授業評価アンケートを行っているので、各教員がリアルタイムに評価内容を確認することができる。
- ・教員が学会や研修会に参加することを奨励している。ここで知り得た最新の研究成果・時事情報は、教員が授業で積極的に取り上げ、それぞれ創意工夫をしている。
- ・専門的な資格取得を奨励し、入学時のガイダンスにおいて本校で取得可能な資格の内容について説明を行っている。
- ・少人数制により、国家試験合格に向けて、担任が学生個人の習熟度を把握し、きめ細かな指導を行っている。
- ・不合格者においては、聴講生制度があり国家試験合格まで指導している。
- ・診療放射線技術学科においては、国家試験対策担当教員を1名選任し、精神面のサポート等一人一人に寄り添った指導を行っている。

【改善策】

- ・専任教員の各専門領域、各教科関連の研修について、学科レベル、個人レベルでの取組をさらに強化していく。また、学内でのFD研修体制を確立していく。
- ・オンライン授業と対面授業における理解度や取り組み方などについて、比較を行ったが、改善できる点は早急に対応していきたい。
- ・授業担当者へ授業評価の結果周知を行い、翌年度の授業改善に活用できるような教育支援に取り組んでいく。
- ・国家試験の合格に向けて、学生の能力や習熟度を個々に把握しながら、さらにきめ細かな指導を強化していく。

IV 学修成果

	評価項目	評価
17	就職率の向上が図られているか	3
18	資格取得率の向上が図られているか	4
19	退学率の低減が図られているか	3
20	卒業生の社会的な活動状況や評価を把握しているか	3

【状況・課題】

- ・各学科においてクラス担任が主導となり履歴書等の書き方及び面接の個別指導を行っている。また、就職支援担当教員を1名選任し、就職指導の強化と就職支援情報の提供の充実を図っている。
- ・学生への面接指導を教員による専門職としての目線から、職員による人事採用者としての目線からそれぞれ実施している。
- ・1年次から国家試験関連科目の講義の授業を取り入れ、早い段階から意識付けをし、基礎学力の不十分な学生には個別指導や希望者を集めての補習授業を行うようにしている。
- ・学力不足の学生に学修指導、補講など行うことにより退学の低減に努めている。
- ・新着求人票を迅速に学生に公開するために「学生ポータルサイト」で、受理した求人票を随時更新し、各学生がパソコン又はスマホから、常に閲覧できる体制にしている。さらに**Career Map**も併用しているが、学生ポータルサイトで全ての情報が閲覧できるようにデータを移行している。
- ・卒業生の就職状況や社会的な活動状況について、学校案内書、Webサイト、学生ポータルサイトで常に閲覧できるようにしている。

【改善策】

- ・退学防止に向けて入学時の研修内容の改善や、医療機関との提携によるメンタルヘルスケアの実施など引き続き、学生生活の支援に取り組んでいく。
- ・入学許可と同時に**Google Workspace**の初期設定を促し、新入生の入学前の学習に対する不安要素を払拭のために環境整備を進めていく。
- ・入学者全員が技師免許を取得して卒業できるように、学生の情報共有に努め、全教職員で退学者防止の対策を強化する。
- ・同窓会や医療機関などの職場との連携を図りながら、引き続き卒業生の状況把握や支援を

目指していく。そのためには、卒業後もの Gmail や Career Map を継続して使用できるように、学生ポータルサイトや、卒業式等全体の場でアナウンスしていく。

V 学生支援

	評価項目	評価
21	進路指導に関する体制が整備され、機能しているか	3
22	学生相談に関する体制が整備され、機能しているか	3
23	学生の経済的側面を支援する体制が整備され、機能しているか	4
24	保護者と適切に連携しているか	4
25	卒業生への支援体制はあるか	3

【状況・課題】

- ・今年度より「学生ポータルサイト」を運用し、新型コロナウイルス感染症関連情報や新着求人など様々な学生支援に応えられるサイトづくりを心掛けた。
- ・新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者など登校できない学生については、リモートにより、きめ細やかな相談を実施している。
- ・学生個々の意思を尊重しながら、個別の対応を実施しているが、学生自身が学生相談のシステムを十分に認識しているとは言い難く、引き続き周知に努める。
- ・奨学金制度関連の手続きや、学納金の延納・分納の受入、令和2年4月から実施された、高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金等、家庭環境に合わせた支援体制に基づき、丁寧な対応を心がけている。
- ・保護者に対して学生の成績を通知する際に、学校に対する要望等があれば、返信して頂くよう保護者をお願いをしている。
- ・学生の学修状況を鑑みながら保護者への連絡や面談を適宜実施しており、保護者の理解、協力を得るよう努めている。
- ・卒業生への支援体制は、証明書発行、就職斡旋等、個別に対応している。
- ・近況報告を兼ねて卒業生が来校することがあり、その機会に働いている環境や医療業界の最新情報を得ることができており、その情報は在校生へ就職支援をする上で重要な資料となっている。
- ・コロナ禍により、各種就職説明会が中止となり、就職活動の時期が例年より遅れたため、就職に関する冊子の配布や、きめ細やかな就職相談を実施している。
- ・昨年度は求人数が例年よりかなり少なかったため、今年度は学生支援室より「求人案内」や「求人申込書」を医療機関に送付した。
- ・卒業生には、Gmail および Career Map のメッセージ機能を卒業後も継続して利用できるようにしている。

【改善策】

- ・求人票の適切な管理および情報提供により、学生の自主的な取り組みが見られるが、より積極的な学生支援室の利用を促していく。
- ・実習先の医療機関以外でも、施設訪問を実施して、学生や求人等に関する情報交換や進路開拓に努めていく。

- ・学生便覧の配布や入学時のガイダンスの実施などにおいて、学生相談の利用方法に関する認知度を引き続き高めていく。
- ・学生の個人情報に留意しつつ、学生相談で得た情報を共有し今後の指導に反映させる。
- ・学納金納付困難な学生に対する奨学金制度の充実などに努めていく。
- ・コロナ禍の影響などで、登校できない場合の学生相談等について、リモートおよび Gmail を利用し対応できるようにする。
- ・Google Workspace を日頃から教職員と学生とのコミュニケーションツールとして利用することを推進し、さらに、卒業後の就職・転職活動や同窓会情報の提供等、引き続きこれらのツールを利用していく体制を整えていく。

VI 教育環境

	評価項目	評価
26	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	4
27	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	4
28	防災に対する体制は整備されているか	4

【状況・課題】

- ・学生教育の充実を第一に、また、全学生に Chromebook（ノートパソコン）を貸与し、各教室に Wi-Fi を導入している。電波の弱い教室や場所については調査し、Wi-Fi の増設および機器の改修を行った。
- ・各教室に、ハイブリット型の授業を行うための機器（小型カメラ・三脚・ワイヤレスイヤホンマイク・会議スピーカー・授業記録用デジタルビデオカメラ等）を揃えた。
- ・大教室において、メインのスクリーン以外に、移動式大型テレビを設置した。
- ・施設設備の一部について老朽化に伴う修繕のほか、適宜、IT機器等の備品の更新や入れ替えを要する。
- ・学校花壇に四季折々の花苗を植え、校舎周辺の美化管理に努めた。
- ・実習やインターンシップについての教育体制は整っており教育に活かされている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として示された「新しい生活様式」を推進して、校内における感染対策、感染防止習慣を指導している。各校舎の玄関ロビーに AI 顔認証+体温測定システム『iFace Scanner』を導入し、入校者に検温を徹底している。あわせて手指消毒・机上消毒アルコールのボトルの増設・設置場所の見直しを行った。
- ・飛沫感染防止対策として、各教室の学生の座席はもちろん、図書室・自習室・教務室・講師室・事務室受付などに、シールドを設置した。
- ・二酸化炭素測定器を各教室・実習室等に設置し、換気の重要性を学生に周知している。
- ・毎日1回、手が触れる場所・各教室の机などの消毒および換気を教職員で行っている。また週1回、各教室をモップ掛け清掃および移動式空気清浄機を設置し衛生管理を徹底している。
- ・教務室に、ウィルス除去機能がある大型空気清浄機を導入した。
- ・学習スペースで自習する学生の為に、LED照明を増設した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策の換気に伴い、寒さ対策として、比較的学生の利用が多いロビーと廊下の学習スペースに、業務用大型ストーブを設置した。

- ・消防署との連携強化を図り、新たに防災計画書の作成などに努めた。
- ・緊急地震速報の装置を更新し、定期的にテスト放送を行っている。
- ・学生用の災害時備蓄品として保存食・防災セットを整備し、定期的に点検している。
- ・災害時備蓄品としてカセットコンロ、心電計、血圧計、聴診器を整備し、実習でも使い定期的に点検している。
- ・Chromebook（ノートパソコン）を全学生に貸与し、授業や自主学習における教材配布および教職員への質問や相談、連絡等を Google Workspace の Gmail、Forms、Classroom、学生ポータルサイトなどあらゆるツールを利用できる体制を整えた。
- ・コロナ禍により、前期の前半に一部授業計画の見直し・変更等があったが、これからも同様の社会情勢が考えられることから、緊急時のアレンジメントの必要性を感じた。
- ・新型コロナ感染者もしくは濃厚接触者等でやむを得ず欠席している学生がいた期間については、対面授業と同時にオンライン配信を実施したハイブリット型の授業が行うことができた。
- ・コロナ禍のオンライン授業やハイブリット型の授業については、Meet の録画機能で講義内容の動画を蓄積することにより、学生は復習などをする時に繰り返しこれらの講義を視聴することができた。

【改善策】

- ・教職員と学生の更なる情報共有等の向上に取り組んでいく。
- ・学内施設の設備の整備及び最新の教育機器の導入に取り組む。
- ・Google Workspace により、コロナ禍のオンライン授業などで、教職員と学生の情報共有がスムーズに行われたが、これからも同様の社会情勢が考えられることから、各教職員のスキル向上に努めていく。また、学生に対しても Google Workspace の各ツールを積極的に利用するよう指導をしていく。
- ・換気については、寒い期間はどうしても閉めがちになるため、休憩時間ごとにドア・窓を開放するよう始業前のショートホームルームで換気の重要性を周知したい。
- ・教職員全体で環境美化、清掃活動に積極的に取り組めるよう計画を進めていく。
- ・作成した防災計画書に基づき地震災害を想定した訓練を行うなど、内容の充実を図っていく。
- ・実習室でガスバーナー等、火器を多く使う臨床検査技術学科の学生については、消防署の指導による消火器訓練を実施したい。

VII 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
29	学生募集活動は、適正に行われているか	4
30	教育成果の情報提供は、適正に行われているか	3
31	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し検証しているか	4
32	学納金は、妥当なものとなっているか	4

【状況・課題】

- ・コロナ禍の影響により、新しい生活様式に対応した募集活動や情報提供、入試選考等、適正に実施している。
- ・外部の進路ガイダンスでの本校志望者に対しては、感染症予防を踏まえた上で、体験入学等への来校を促進し、改めて本校の教育内容等の理解を深めてもらえるように努めている。場合によっては、個別のリモートや Web 動画配信などで本校の情報提供を行っている。
- ・臨床検査技術学科では、指定校・推薦・前期 1 期の合格者に対し、Gmail の初期設定を事前に行った。それをふまえて、入学前教育を 1 2 月中旬に対面及び Meet を利用して実施している。入学前教育終了後は、Classroom より課題の配布、Forms による課題提出などを行っている。
- ・診療放射線技術学科では指定校の合格者に対しては数学と物理の確認学習を 1 1 月より週 1 回ペースで全 1 1 回、郵送にて行っている。さらに指定校を含む全試験の入学手続き者には、数学・化学・生物・物理の総合課題を 1 月下旬に郵送している。
- ・両学科とも入学前教育をサポートするための、担当者を配置し、問題作成や添削のほか、リモートや電話による相談などにも対応できる体制を整えている。また、教員と新入生との間で Gmail を利用して気軽に質問や相談できる環境を整え、不安要素を取り除いたうえで、入学後もスムーズに学生生活がスタートできるように努めている。
- ・診療放射線技術学科指定校制合格者に対し、Gmail の初期設定を事前に行った。それをふまえて、入学前教育を 1 月下旬、2 月上旬および 3 月上旬の 3 回に渡り Meet を利用して実施している。
- ・特別推薦入試（指定校制）以外の入試については、Web 出願機能を導入した。
- ・入試に関しては、実施要領を作成し、特に面接の設問等はそのマニュアルに従い厳正なる選考を行っている。
- ・学納金等は、適正かつ妥当な金額に設定している。
- ・学納金等については、学校運営経費や教材費、諸経費等の無駄な支出がないか、常にチェックをしている。
- ・学納金及び奨学金制度等については、募集要項及び Web サイト等を通じ、情報提供を行っている。また、今年度から実施している高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金については、該当者に対して丁寧に対応している。

【改善策】

- ・少子化対策や競合分野における大学の学部等の新增設に対応すべく、広報担当者を中心として、教職員と連携して学生募集および情報提供に努めていく。
- ・コロナ禍において蓄積した経験や実績を応用して、今後の募集活動強化に努めていく。
- ・入学希望者の対応について広報担当者以外の教職員も即時対応できるよう情報の共有、研修等の強化を図る。

VIII 財務

	評価項目	評価
33	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
34	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
35	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
36	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【状況・課題】

- ・教職員一同の努力によって財務基盤は安定している。
- ・将来に向けた設備投資のため、中長期による予算、収支計画を練っており、必要経費を確保しながら学校運営にあたっている。
- ・会計監査は適正に実施されており、外部の税理士による確認も実施している。
- ・本校 Web サイトで財務情報の公開を行っている。

【改善策】

- ・将来に向けた設備投資に関して具体的な計画書を作成する。

IX 法令等の遵守

	評価項目	評価
37	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
38	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
39	自己点検・評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
40	自己点検・評価の結果を公表しているか	4

【状況・課題】

- ・普段より法令及び設置基準等の遵守に努め、適正に学校運営にあたっている。
- ・個人情報について、特に管理上の取扱に配慮している。
- ・自己点検・評価について改善のために取り組み、問題点の改善に努めた。
- ・本校 Web サイトで自己点検・評価の結果を公表している。

【改善策】

- ・個人情報を含む、諸表簿の整理、処分を含めた管理体制を維持する。
- ・自己点検・評価を具体的な改善につなげるべく教職員会議等の機会を活用しながら、校務分掌や教育活動等の遂行状況の把握を促し、意識させていく。

X 社会貢献

	評価項目	評価
41	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
42	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
43	地域や関係団体との連携や交流を通して、地域活動に参加しているか	2

【状況・課題】

- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」に加入しており、1年次が科学リテラシーやサイエンスコミュニケーション能力向上の研修を行った。
- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」を多くの学生に利用してもらうために、学内掲示板や学生ポータルサイトで最新情報を発信した。
- ・夏休み親子科学教室（小学4～6年生対象）、中学生及び高校生による職場訪問の受入れを行っていたが、本年度もコロナ禍により開催中止や受入制限をした。
- ・コロナ禍において新しい生活様式に対応しながら、教育資源を広く社会に対して活用していく体制を整備している。
- ・校外で実施されているボランティア活動情報の掲示など支援の取り組みを行っている。
- ・臨床検査技師の認定資格試験、講習会の会場として施設を提供している。

【改善策】

- ・今後の状況をふまえ、新しい生活様式に対応した内容に改めて、地域交流の体制を整備していく。
- ・地域の中学生を対象とした臨床検査技師、診療放射線技師の仕事についてリモートによる特別講座や交流活動などの開催も検討していく。
- ・学校行事において、感染症対策を十分行ったうえで、清掃活動等の地域貢献に係る事項を検討していく。
- ・ボランティアの依頼があれば積極的に参加するとともに、コロナ禍での社会貢献の在り方について検討し、実施につなげていく。